

都道府県別賞一等

生命保険の大切さ

長崎県 佐世保市立清水中学校 一学年

毛利 匠吾

今から三年前、僕の父のお兄さんが肝臓ガンで亡くなりました。

伯父さんは高校三年生くらいから体調が悪くなりはじめ、病院に行くようになりまして。しかしそのときは病気の原因がなかなかわからず、これといった治療はできなかつたそうです。

社会人になってからも原因不明の倦怠感や疲れが続き、色々な病院で調べた結果、母体からの感染で発症したB型肝炎という病気でした。僕の父の体内にも潜伏しているようですが、幸い父は症状が出ないB型肝炎ウイルスの無症候性キャリアだそうです。

伯父さんには四人の子供がいます。伯父さんは体調が悪くなると入院し、退院しては仕事に復帰していたそうです。家庭を守るために伯母さんも仕事をしながら支えていたけれど、とても大変だっただろうなと思いました。伯父さんは、肝硬変から肝臓ガンになり、手術をしてはまた転移の繰り返しで、長い闘病生活の末、亡くなりました。一番下の子供はまだ中学生で、まだまだこれからたくさんお金がかかるはずですが。病気になって亡くなるまで、医療にかかるお金も相当なものだったと思います。

幸い保険に入っていたようなので、詳しくは知らないけれど多分すぐく助けられたんじゃないかなと思います。こんなとき、本当に生命保険の大切さを知らずだと思いました。

生命保険とは、病気やケガ、亡くなったり介護が必要になったり、予期しない出来事が突然起きたときにお金に困らないように備えておくことができる、とても大切なものです。

身近に父の職場でガンになった方がいたそうで、そのときに保険に入っていないと、治療費がかなりかかったという話を父がしてくれました。それをきっかけに両親は保険の見直しをしたそうです。病気、ケガ、事故はいつ起こるか誰も予想できないからこそ、保険は必要で、僕たちが安心して生活を営んでいくための大切な備えであると思います。一家の誰かが病気になって働けなくなる、生活ができません。もしもに備えることがこんなに大事なことだと、改めて考えさせられました。

僕はまだ中学生で保険のことは全く考えたことも気にしたことなかったけれど、これをきっかけに少しは生命保険のことを知ることができてよかった

第54回中学生作文コンクール

と思います。そして、備えは必要だけれど、家族が元気で、健康に暮らせることがどんなに幸せなのかということも改めて感じさせられました。